

# 地域づくりは地域資源の活用と人材育成

## まちづくり研修会

6月26日、神崎ふれあいプラザ視聴覚室で(株)ちばぎん総合研究所主任研究員小松孝之氏を講師に迎えたまちづくり研修会が開催され、町内外から123名の参加がありました。

小松氏は、「圏央道の整備効果と(仮称)神崎ICを生かした地域づくりの方向」と題して約70分間にわたって講演。

現在工事が進められている圏央道の経済波及効果や神崎町の魅力(大地や川の恵み、発酵の文化)と課題(産業の低迷、観光の取組みに乏しい)などについて説明し、(仮称)神崎IC周辺を生かしたまちづくりには、拠点となる



圏央道の整備状況等や地域づくりの視点・基本方向を説明する講師の小松氏

施設を中心に神崎ならではの特徴を生かした長期ビジョンを掲げ、地域資源の活用と原動力となる人材育成が不可欠であると話され、有意義な研修会となりました。

### アンケート内容

研修会終了後、アンケートを依頼したところ31件の回答がありましたので主なものを紹介します。

神崎IC周辺地域整備に賛成の意見

IC開設というチャンスを見逃さず、ハイウェイオアシス構想を進めるべきである。神崎町の可能性の大きさを改めて確認した。具現化に向け町全体で行動を起こす時である。

道の駅のあり方についての意見

多目的に使用できる建物が理想的である。地元の農商工業を優先してほしい。

周辺整備に慎重な意見  
厳しい町財政を考えると不

安である。身の丈にあったものにすべきである。周到な準備と失敗した場合も想定すべきである。その他の意見・要望等  
都市計画や下水道の整備。IC周辺の整備は一方において都市型の犯罪・公害をもたらすので注意すること。人材確保と住民の声を生かした形での周辺整備をお願いしたい。

町では、住民の皆さまの意見を環境や景観に配慮した周辺整備・施設づくりに反映させるため、地元・地権者説明会や地元生産関係者等の説明会を含めた対話の場を数多く持ち、厳しい財政状況のなかで、国・県・関係団体からの支援や補助制度の活用を検討し、コストを抑制しつつもアイデアに満ちた施設づくりに努めたいと考えています。

さらに、施設運営面では関係者と協力して研究・検討を図り、人材育成と共に地元産業が伸展するような運営形態の創設に努め、周辺地域における整備が町の活性化と発展につながるよう進めてまいります。

## 国保だより

### 75歳以上の方々の医療が変わります

#### 平成20年4月から老人保健制度は

#### 「後期高齢者医療制度」へ

現在、老人保健で医療を受ける方は?

75歳以上の方(昭和7年9月30日以前に生まれた方)

昭和7年10月1日以降生まれの方は、75歳の誕生日の翌月1日から(1日生まれの方はその月から)老人保健で医療を受けます。

寝たきりなど一定の障害がある65歳以上の方も老人保健で医療を受けます。

申請して町長から認定を受けることが必要です。

に設置される「後期高齢者広域連合」の運営する保険の加入者となり、新しい保険証が一人に1枚交付されます。

負担はどうなる?

お医者さんにかかるごときの自己負担は、これまでと同様に一般の人は1割負担、現役並み所得のある人は3割負担となります。

保険料は?

保険料は、広域連合ごとに決められ、原則として年金から徴収されます。今まで自分で保険料を払っていなかった社会保険などの被扶養者の人も保険料を負担します。

#### 平成20年4月からは?

前記の老人保健対象者の加入保険が国保、社会保険、共済組合などこれまでの医療保険に関係なく、都道府県ごと



今後、詳しい内容が決められてきますので、広報等を通じてお知らせしていきます。

お問い合わせ 町民課国保年金係 ☎2111